

課題名：アルツハイマー病におけるアミロイド関連画像異常（ARIA）のリスクファクターに関する臨床研究

代表機関/代表者：三重大学/新堂 晃大
研究期間：令和7年度～令和9年度

研究開発目的

アルツハイマー病に対する抗アミロイドβ（Aβ）抗体薬の普及に伴い、副作用であるアミロイド関連画像異常（ARIA）の適切な診断・管理が重要となっています。本研究では、抗Aβ抗体薬に伴うARIAと、脳アミロイド血管症（CAA）に関連して自然に発症するCAA関連炎症（CAA-ri）を対象に、発症機序や危険因子を明らかにし、安全な治療導入に役立つ診断・予測基盤の構築を目的としています。

取り組み

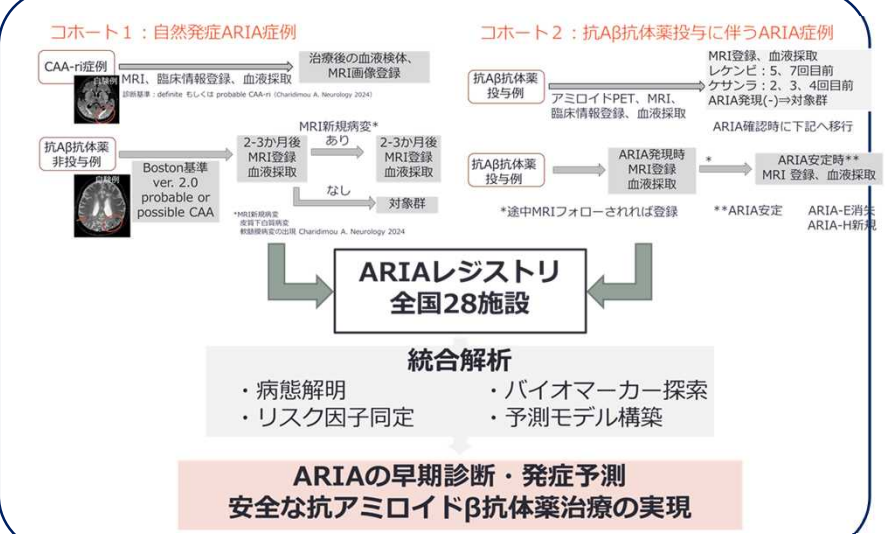
全国の研究協力機関と連携し、CAA-riおよび抗Aβ抗体薬関連ARIAを対象とした全国レジストリ研究を推進しました。MRI画像、血液検体、臨床情報を前向きに収集する体制を整備するとともに、アミロイドPETを含めた画像評価体制の標準化を進めました。

成果

研究協力施設を10施設から28施設へ拡大し、全国規模のレジストリ体制を構築した。2026年3月末までに60例を超える症例登録を達成し、MRI画像や血液検体を用いた解析基盤を整備しました。さらに、血液バイオマーカーや画像所見を用いたARIAリスク評価に向けたデータ蓄積を進めました。

今後の展開

症例登録をさらに拡大し、MRI、アミロイドPET、遺伝学的情報および血液バイオマーカーを統合した解析を進めます。自然発症ARIAと薬剤性ARIAの共通病態を解明するとともに、ARIAの早期診断や発症予測に活用可能なバイオマーカーおよびリスク予測モデルの構築を目指します。



進捗状況（令和7年度）

項目	開始時	令和7年度末
参加施設	10施設	28施設
登録症例	0例	60例超
MRI収集	体制整備	実施中
血液検体	体制整備	実施中
PET評価	検討段階	評価・品質管理体制構築